



●スペイン

こんにちは。工藤篤子です。

5月30日～6月6日、スペインへ行ってまいりました。

カセレスの友人の結婚式での賛美、マドリッド日本人集会の皆さんとおの交流、そして主は至るところで福音を宣べ伝えるチャンスを与えてくださいました。皆様のお祈りに感謝いたします！今日は

その報告をさせていただきます。写真：夜のマドリッド（Plaza de Villa ダ・ヴィーリャ広場）

6月1日：カロリーナとジミーの結婚式(カセレス)

カセレスはポルトガルに隣接したエクストレマドゥーラ地方にある美しい町です。12～16世紀に小高い丘に立てられた建物がそのまま残った旧市街は絶景です。旧市街を散策した私は、その静かなたたずまいに、タイムトンネルを通過して、まるで中世の時代にいるのではないかと錯覚するほどでした。皆さん、ここは実に観光の穴場ですよ！



カロリーナとジミーは、何と、カセレス郊外にあるエクストラマドゥーラ独特の、遙かに地平線が続く平原にテントを張って結婚式を挙げたのです。参加者80数名、ほとんどがカロリーナの家族です。式が始まる前、私たちは手を

合わせて祈りました。「神様。カトリック信者である家族に、この結婚式を通して真の救いを証しさせてください！」カトリックの多くの方が善行によって救われると信じているからです。

メッセンジャーとしてマドリッドから駆けつけた牧師のカルロスは、「私達を救うのは、宗教でも哲学でも善行でもありません。聖書に書いてあるみことば、つまりみことばであるイエス・キリストが私達を救ってくださいなのです。そしてこのみことばを通して、主イエス・キリストと人格的な交わりを持つことができるのです。そして私たちはキリストのように変えられるのです。皆さん、これは素晴らしいことだと思いませんか？」と大胆にメッセージしました。

私は Dios tan solo Dios, Aazing garce、輝く日を仰ぐとき（もちろんスペイン語で）を賛美しました。式の後、ほとんどの人々が、自分たちのスタイルとは全然違うけれど、新鮮で感動的だった、と喜んでくださいました。私達は、この日、福音を聞いた人たちが真の救いを見い出せますように、と祈っています。

カロリーナとジミーはこれからニューヨーク近郊のバッファローに新居を構えます。ジミーは宣教師になるべく準備をしています。ふたりのこれからの奉仕のためにお祈りください。

6月2日:マドリッド日本人集会

マドリッドでは、フィンランド人のハンナ・キビニエミさんのお宅で一年前から「聖書を読む会」が始められました。

昨年夏の「ヨーロッパ日本人キリスト者の集い」でこのことを知った私は感動しました。私の第二の故郷であるマドリッドは、ヨーロッパの大都市の中で、唯一日本人の集まりのないところでした。それで18年間も、マドリッドに日本人の集まりができますように、と祈っていたからです。

この日、私を含めて8人の集まりとなりました。12時すぎから始まり、2時の食事まで、というので、私は長い証しをさせていただきました。その後は、昼食で幸いなお交わりの時を持たせていただきました。

アメリカから移ってきて間もない日本人女性は、フェニックスの教会の先生から、「スペインへ行ったら日本人教会を建ててください。」と言われてきたそうです。外交官の方は、以前「もし自分が外交官になったら、世界のあちこちの日本人の集会のお手伝いをしたい。」と、祈っていたそうです。このように、私の祈りだけでなく、たくさんの祈りがあってのマドリッド日本人集会だったのです。皆さん、どうかマドリッド集会の祝福のためにお祈りください。

伝道の日々

カセレスから友人ベゴニャと車でマドリッドに戻りましたが、マドリッド市内に入ってから、私たちは道が分からなくなりました。もう夜の12時を回っていました。そこで、車の窓を開けて道行くご夫婦を呼び止めました。(スペインでは、こんな時間によくカップルが散歩します)。スペイン人はおしゃべり好きですから、そこで井戸端会議になりました。

ご主人の方は、かなりの博学でした。ひょんなことから「私たちは福音派の信者です。」と言ったら、話がそちらの方向に発展しました。約40分間、私たちは聖書のみことばをもって、神の救いの計画を説明しました。けれども彼は「自分は求めてきたけど、見い出せなかった。」を繰り返します。最後に名前を聞いて、「お祈りしてますよ。」と言って別れました。彼の名はフェルナンドです。

また、マドリッドの歌の教授マリミ(女性)が食事に招待してくれました。そこで、マリミのご主人が福音派の信仰のありかたについて話してくれないか、とまじめに言うのです。この日、私は彼に簡潔に、イエス・キリストのうちにある「いのち」の素晴らしさについて説明をしました。すると、今度は数日彼らの家に滞在してもっと話しを聞かせてくれ、というのです。彼は、昔は私の信仰を嘲笑していたひとりでした。

当時、私の信仰のあり方は、多くの人にとって物笑いの種だったようです。1987年にドイツへ移る時には、爆風のような反対と攻撃を受けました。実際、彼らは彼らなりに、私のことを真剣に考えてくれていたのです。主はその友人達とのコンタクトを継続させてくださり、以来15年間、私の内に働かれる主のみ業を証ししてくださいました。そして今回、旧友や母校で学ぶ学生などにもその証しをすることができました。主のみ業はくすしきかな！

お祈りください

・ハンブルグで継続している聖書を読む会のために。参加している、Kさん、Sさん、Tさんの救いのために。（2回目は6月8日でした。次回は6月23日です。）

・ハンブルグでの祈りと主との交わりの時が守られ祝されますように。

・ユダヤ人L氏と奥さんの救いのために（6月15日に会います）。

今、日本はワールドカップで沸き立っている最中と思います。ヨーロッパでも男性陣はテレビに釘付けです。どうか主が、このワールドカップを伝道のチャンスに用いてくださるようにと祈っています。

どうぞ祝された日々をお過ごしください。

また紙面にてお会いできるのを楽しみにしております。

Atsuko Kudo